

大規模地震へ備える

～過去の地震被害から学ぶ豊田市上下水道局の取組～

(背景)

稲武地区

飲料用循環式耐震性貯水槽

(参考地震)

令和 6 年能登半島地震

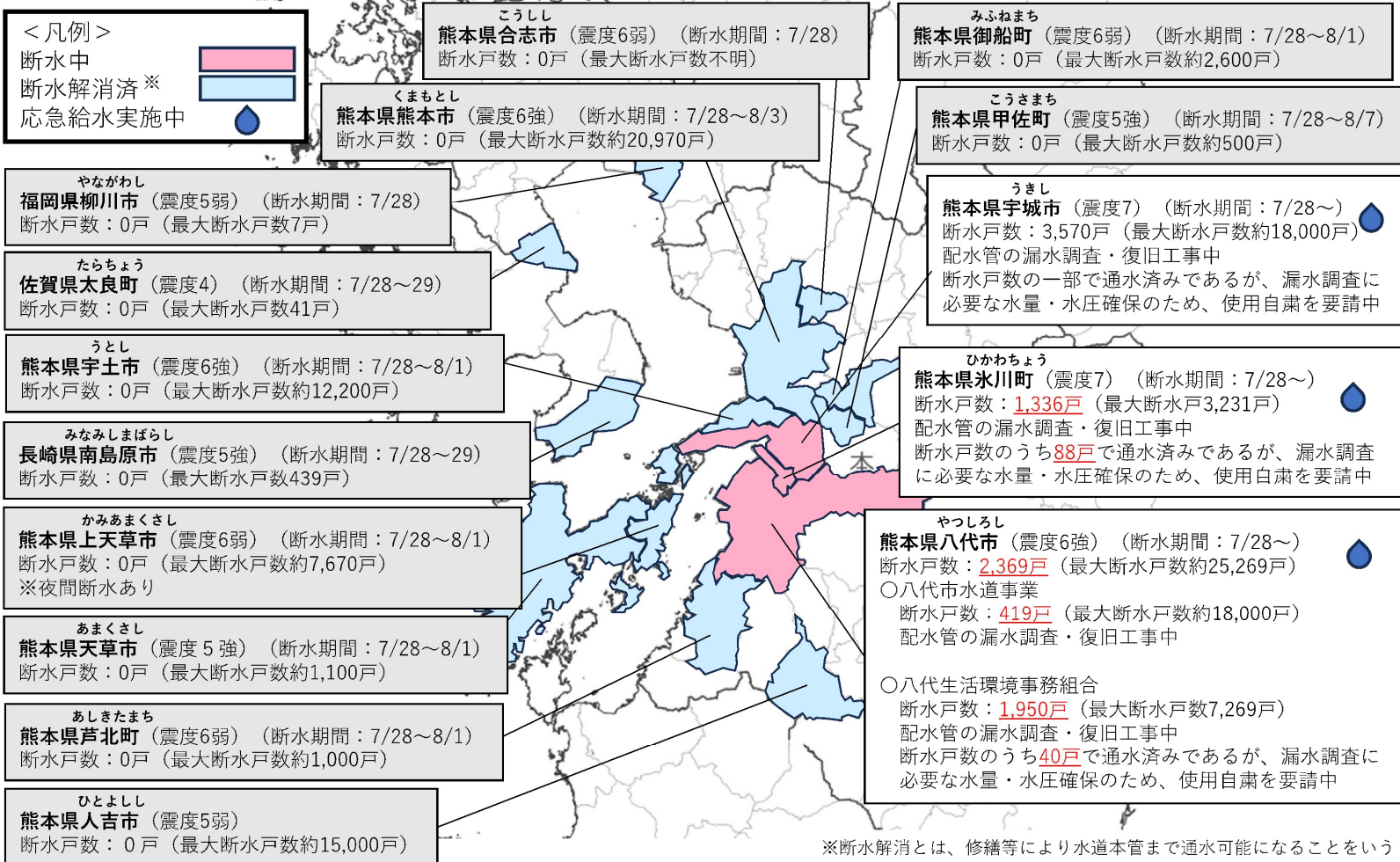
令和 8 年熊本地震

平成 2 8 年熊本地震

【令和8年熊本地震】水道施設の被害状況等について

国土交通省
令和8年8月18日
7:30時点

- 4 県（15 自治体）において断水が発生（最大断水戸数約108,100戸）
- 熊本県の3自治体において約7,300戸が断水中、そのうち約100戸は通水済み（漏水調査に必要な水量・水圧確保のため使用自粛を要請中）
- 全国の自治体及び工事業者により応急復旧を支援中（76班、約260人※） ※現場状況により班人数が変動するため人数は概略値



【令和8年熊本地震】 応急給水等の状況

国土交通省
令和8年8月18日
7:30時点

- 熊本県内の3自治体において、現在約7,300戸が断水中(最大断水戸数は、4県(15自治体)において約108,100戸)。
- 国土交通省、日本水道協会、自衛隊において、全国からプッシュ型で支援するよう、給水車を確保。現在、給水車129台で支援中。
- 給水ニーズを踏まえた給水箇所の拡充、避難所・医療機関への優先の徹底などのため、関係機関と連携し、現地応急給水支援本部を設置。
- 避難所・医療機関に加え、福祉施設などの重要施設における給水ニーズを把握し、優先度を踏まえ応急給水を実施。
- 引き続き、自衛隊の協力や、巡視船、水資源機構の可搬式浄水装置等からの給水により、応急給水の量や頻度を向上。
- 今後も猛暑日が続く中、給水ニーズを的確に把握し、きめ細やかに応急給水を実施。

<給水車の派遣状況>

(単位:台)

被災水道事業者	計	国交省	日水協	自衛隊
八代生活環境事務組合 (八代市と氷川町で構成 される一部事務組合)	30	2	28	0 ※氷川町のみ
宇城市	27	4	21	2
八代市	61	10	49	2
宇土市	3	0	1	2
熊本市	4	2		2
(派遣先調整中)	4		4	
計	129	18	103	8

※上記の給水車を活用し、給水所への応急給水に加え、避難所の生活用水(仮設トイレ、シャワー)、医療機関、福祉施設でのニーズに対応

<応急給水の実施状況>



可搬式浄水装置(水資源機構)
設置場所:氷川町竜翔センター
処理能力:50m³/日
8月4日より生活用水として給水開始
8月5日より飲料水としても給水開始



8月10日 トイレカーへの充水状況
(氷川町竜北東小学校)

令和8年熊本地震への豊田市の主な支援内容

・トイレカーの派遣(3台)

<派遣の経緯>

内閣府が運用している「災害対応車両登録制度(令和7.6.1開始)」に基づき要請を受けたため、
8月5日に2台(モバイルトイレ、モバイルトイレユニット)を派遣(宇城市)
→その後現地のトイレの運用状況やニーズを踏まえ、8月7日に多機能車両サクラを派遣

・支援物資の搬送

<内訳>

350ML入り飲料水1,200本、
経口補水パウダー1,000本、
着圧ソックス200足、
サンシェード200個、
防水シート100枚

注)派遣実施主体:防災対策課(上記は同課資料より抜粋)

モバイルトイレユニット



モバイルトイレ



< 豊田市の南海トラフ巨大地震被害予測 > ※令和8年6月公表
最大震度：6強、マグニチュード8.9（過去地震最大モデル）
最大断水戸数：直後約380,000人（全人口の約92%）約177,500戸

< 過去の地震被害 > ※国土交通省公表資料より

①令和6年能登半島地震

発生日時：令和6年1月1日 午後4時6分

最大震度：7（マグニチュード7.6）

最大断水戸数：約136,440戸

復旧：令和6年5月31日に建物倒壊地域等を
除いて断水解消

最大92台/日程度の給水車が現地応急給水
活動を実施

②令和8年熊本地震

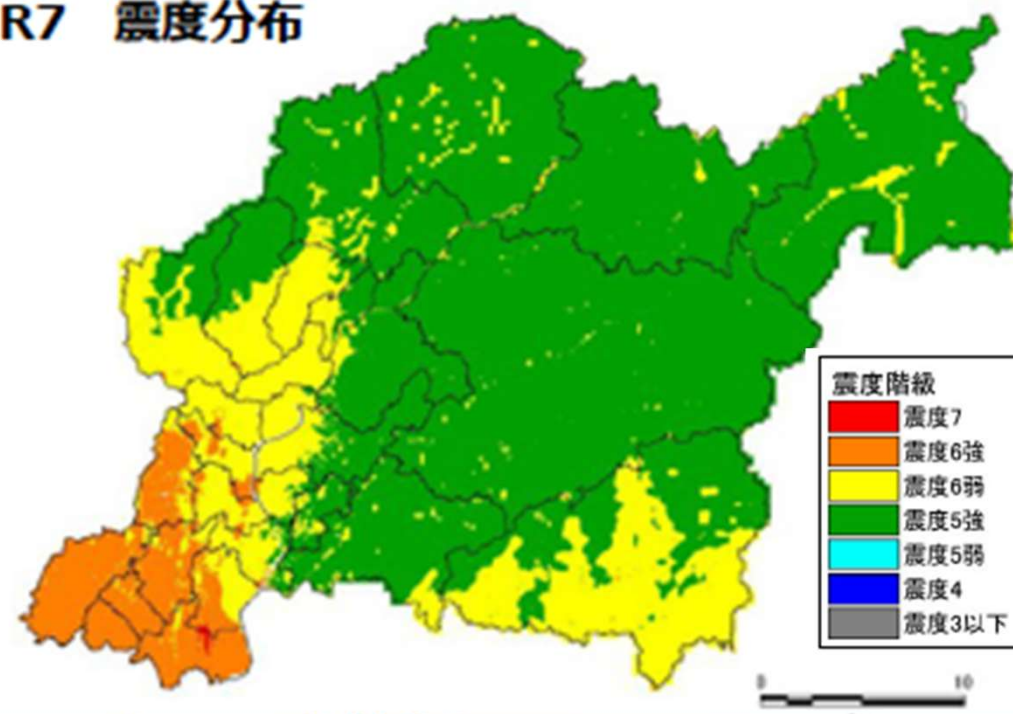
発生日時：令和8年7月28日 午後4時27分

最大震度：7（マグニチュード7.1）

最大断水戸数：約108,100戸

復旧状況：給水車最大188台による応急給水活動、
復旧班最大71班による復旧（8/11現在）

R7 震度分布



【出典：豊田市地震被害予測2026】

令和6年能登半島地震、令和8年熊本地震と同じ規模の地震がこの地域で発生すると、
豊田市1市だけで両地震を超える断水戸数が予想されている！

令和 8 年熊本地震では断水約200世帯に対し、給水車 1 台が対応
上記を豊田市の最大断水戸数にあてはめると給水車台数は最大約890台
愛知県内全体で同様に被害があると想定すると、給水車が圧倒的に不足！



【令和6年能登半島地震での応急給水活動の様子】



図2 能登半島地震（令和6年）における断水戸数の推移

【出典：日本水道協会】

発生が危惧される南海トラフ地震に対して、
水道管路の耐震化、応急給水体制の構築など地震対策
を進める必要がある！

（参考）応急給水活動の過去実績

- ①令和 8 年熊本地震 最大断水戸数：約108,100戸
給水車 日最大188台（8/6）
8/10現在 断水34,038戸に対し、給水車171台（199世帯/台）で対応
- ②令和 6 年能登半島地震 最大断水戸数：約136,440戸
活動期間 1 月 1 日～ 5 月 3 1 日まで（151日間）
給水車 延べ6,800台 日最大92台（1 台当たり対応世帯数不明）
- ③平成 2 8 年熊本地震 最大断水戸数：約446,000戸
活動期間 4 月 1 6 日～ 6 月 2 2 日まで（68日間）
給水車 延べ1,650台 日最大108台（1 台当たり対応世帯数不明）

豊田市上下水道局の進める地震対策

- ◆管路・施設の耐震化 ※令和8年度当初予算概要より抜粋
「上下水道耐震化プラン」により、上下水一体で管路や施設の耐震化を進めています。
(主な事業と予算額)
 - ・重要給水施設管路の耐震化事業 3.3億円
 - ・施設の耐震化事業 3.8億円 など



<管路の耐震化工事>

- ◆応急給水施設の拡充
1 中学校区に1か所の応急給水施設の整備を進めます。
 - ・飲料用循環式耐震性貯水槽の整備
 - ・災害拠点給水施設の整備・改修五ヶ丘配水場、西中山送水場（令和8年度完成）

<飲料用循環式耐震性貯水槽>



<災害拠点給水施設>



- ◆応急給水体制の整備
自助・共助による体制の整備を進めています。
 - ☞自助・・・市民への飲料水備蓄の啓発
 - ☞共助・・・地元自治区、関係団体と行政が一体で
応急給水が行えるよう覚書の締結、訓練の実施

<令和7年度に実施した訓練の様子>

